

icmif

国際協同組合保険連合



ICMIFの概要と加盟の意義

人脈と交流！知見と情報の共有！国際的な働きかけ
新興市場での開発！ICMIFの設立経緯と歴史

www.icmif.org

 @ICMIF_Web

 www.linkedin.com/company/icmif



シヨン・ターバック

ICMIFの概要と加盟の意義

事務局長ご挨拶

国際協同組合保険連合 (ICMIF) は前身母体の時代も含め、もうすぐ創設100周年を迎えようとしています。この長い歴史の中で、今ほどその存在意義が高まっている時代はないといってもよいでしょう。

ICMIFは、世界の協同組合/相互扶助の保険組織を代表する唯一の国際的連合体です。その特徴を活かして、他の組織では真似できない独特のサービスと事業を会員団体にお届けしています。

ICMIFは会員団体が共同で所有する組織として、会員団体の積極的参画の下に管理運営されています。優れた協同組合が組合員のニーズに応えるように、ICMIFも会員団体のニーズや期待の変化を常に把握し対応しています。会員団体の競争力強化を目指して、他では入手できない知見や情報を提供し、人脈を築き交流する機会を作り、人材開発事業を推進し、協同組合/相互扶助の保険組織に対する理解を国際的に深める活動を行うことがICMIFの使命です。

この小冊子は会員団体に真の価値をもたらすICMIFの活動内容をまとめたものです。ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

シヨン・ターバック

ICMIF事務局長

協同組合/相互扶助の保険組織が 集まるグローバルなコミュニティ

アルジェリア
アルゼンチン
オーストラリア
オーストリア
バーレーン
バングラデシュ
バルバドス
ベルギー
ブラジル
ブルガリア
ブルキナファソ
カメルーン
カナダ
コロンビア
コスタリカ
デンマーク
ドミニカ共和国
エジプト
エルサルバドル
フィンランド
フランス
ドイツ
ガーナ
ギリシャ
グアテマラ
ホンジュラス

香港
ハンガリー
アイスランド
インド
インドネシア
アイルランド
イタリア
ジャマイカ
日本
ケニア
レバノン
ルクセンブルグ
マラウイ
マレーシア
メキシコ
モロッコ
オランダ
ニュージーランド
ナイジェリア
ノルウェー
パナマ
パラグアイ
ペルー
フィリピン
ポーランド
ポルトガル

プエルトリコ
カタール
韓国
ロシア
セネガル
スロベニア
シンガポール
南アフリカ
スペイン
スリランカ
スーダン
スウェーデン
スイス
台湾
タイ
トリニダード・トバゴ
チュニジア
トルコ
アラブ首長国連邦
イギリス
アメリカ
ウルグアイ
ベネズエラ
(アルファベット順)

ICMIFについて

協同組合/相互扶助の保険組織のための唯一の機関です

ICMIFは、世界の協同組合/相互扶助の保険組織を代表する唯一の国際的連合体です。その特徴を活かして、290の会員団体*に他の機関では真似できない独特のサービスと事業を提供し、長期的な価値をもたらしています。

会員団体のために活動しています

ICMIFは会員団体が共同で所有する組織として、会員団体の積極的参画の下に管理運営されています。優れた協同組合が組合員のニーズに応えるように、ICMIFも会員団体のニーズや期待の変化を常に把握し対応しています。会員団体の競争力強化を目指して、他では入手できない知見や情報を提供し、人脈を築き交流する機会を作り、人材開発事業を推進し、協同組合/相互扶助の保険組織に対する理解を国際的に深める活動を行うことがICMIFの使命です。

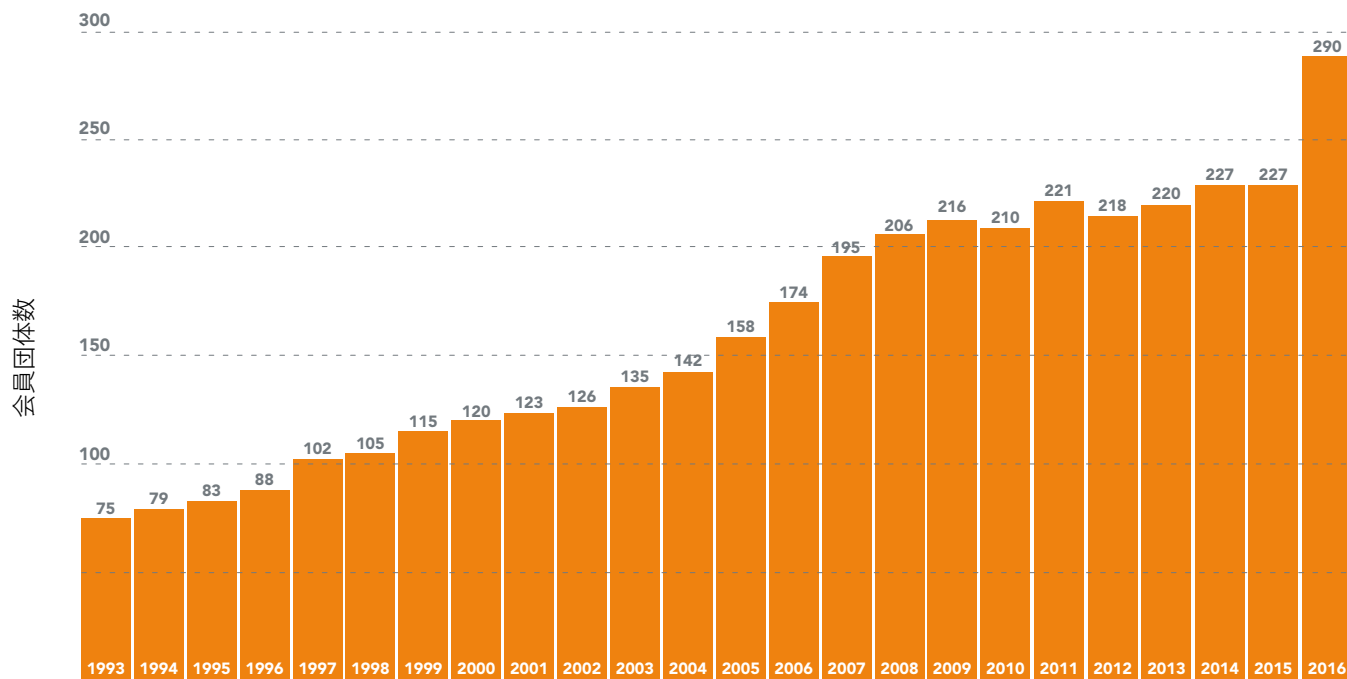
強力なチーム体制を誇っています

ICMIF事務局は30人体制で、必要に応じて外部専門家の協力を得ながら、最先端のアドバイスとサポートを会員団体に提供し、事業成長のお手伝いをしています。職員の大多数が勤務する事務局本部はイギリス・マンチェスターにあります。また、地域の実情に合わせた支援とサービスを提供する地域協会が、ヨーロッパ（本部：ベルギー）、北米・ラテンアメリカ（本部：アメリカ）、アジア・オセアニア（本部：日本）に設置されており、8名が勤務しています。

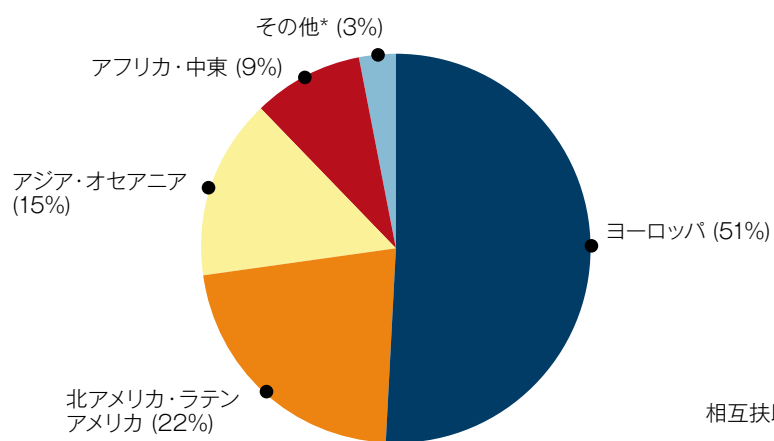
事務局は、コミュニケーション、人材開発、新興市場、アクチュアリー、イベント、調査研究、再保険、規制問題、持続可能性、リスクなど保険関連分野の専門家に加え、法務・人事の担当で構成されています。職員の多くは外国語にも精通しています。

*ヨーロッパの協同組合/相互扶助の保険組織の連合体であるAMICEは2016年6月、ICMIFとの統合案を採択しました。

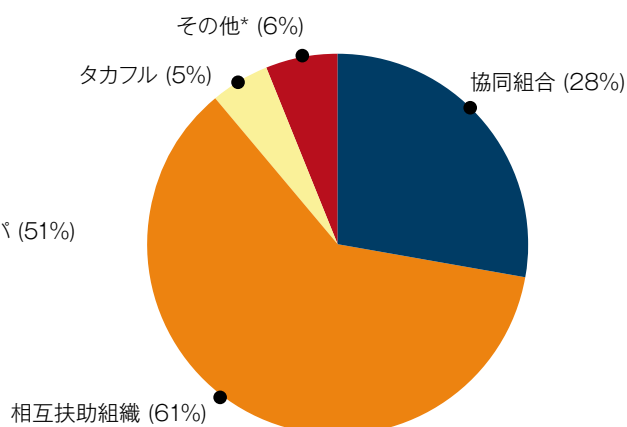
会員団体数の推移 (1993年～2016年)



会員団体の地域別構成



会員団体の法人形態別構成



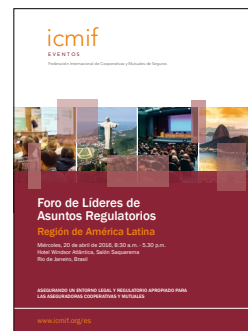
* 国際的団体・組織と協賛会員を含む

人脈と交流の意義と価値

組織内部の問題を解決しようとするとき、外部のアイデアからヒントを得ることがよくあります。ICMIFは互いに交流し、事業機会を追求し、優れた実践例を共有する必要性に応えるため1922年に設立された組織が前身母体となっています。会員団体が集まり、共通の問題や悩みを話し合い、アイデアや解決策を交換し、互いに学び合う、これがICMIFの伝統です。

2016年イベントカレンダー

月日	イベント名	開催場所	ホスト団体
3月 8日~10日	ICMIFアメリカ協会理事会会合	ブルトルコ・サンファン	ムルチプレス保険
4月 18日~19日	ICMIFインテリジェンス委員会会合	ベルギー・ブリュッセル	P&V社
20日	ICMIF規制問題フォーラム ラテンアメリカ会合	ブラジル・リオデジャネイロ	ウニメド保険
25日~26日	ICMIFエグゼクティブ委員会会合	イギリス・マンチェスター	ICMIF
5月 8日~13日	ICMIFマネージメントコース	イギリス・マンチェスター	ICMIF
24日~26日	ICMIFコミュニケーション・フォーラム/規制問題フォーラム合同会合	イギリス・ヨーク	ペネンデン社
6月 1日~3日	AMICE総会(隔年開催)	ベルギー・ゲント	AMICE
6日~8日	ICMIF再保険会議(MORO)	イギリス・ロンドン	ICMIF
7月 12日~14日	ICMIFアメリカ協会理事会会合	アメリカ・ワシントンDC	ICMIFアメリカ協会
8月 22日~26日	ラテンアメリカ再保険グループ(LARG)年次総会	エルサルバドル・サンサルバドル	フソーロ保険
10月 5日	AMICE規制問題作業部会	ベルギー・ブリュッセル	AMICE
11日~13日	協同組合国際サミット	カナダ・ケベック	デジャルダン社、国際協同組合同盟
13日	AMICE協同組合/相互扶助組織の事業モデル推進作業部会	ベルギー・ブリュッセル	AMICE
14日	AMICEコミュニケーション作業部会	ベルギー・ブリュッセル	AMICE
19日~21日	ICMIF理事会/委員会会合	ケニア・ナイロビ	CIC保険グループ
20日	ソルベンシーII報告要件ワークショップ	インターネット会議	AMICE
25日~26日	ICMIFアジア・オセアニア協会(AOA)セミナー	東京	JA共済連、全労済、コープ共済連
28日	AMICEソルベンシーII作業部会	ベルギー・ブリュッセル	AMICE
11月 3日	AMICE各国協会会合	ベルギー・ブリュッセル	AMICE
7日~9日	ICMIFポテンシャルコース	シンガポール	NTUCインカム社
6日~11日	ICMIFマネージメントコース	シンガポール	NTUCインカム社
17日	AMICE理事会会合	フランス・パリ	AAM、FNMF
16日~17日	ICMIFインテリジェンス委員会会合	デンマーク・コペンハーゲン	LBグループ
14日~16日	ICMIFポテンシャルコース	デンマーク・コペンハーゲン	LBグループ
25日	AMICEソルベンシーII作業部会	ベルギー・ブリュッセル	AMICE
30日	ICMIFアメリカ協会理事会会合	ペルー・リマ	セルビペルー社
30日~12月2日	ICMIFアメリカ協会年次総会	ペルー・リマ	セルビペルー社
12月 16日	AMICEソルベンシーII作業部会	ベルギー・ブリュッセル	AMICE



2017年イベントカレンダー

月日	イベント名	開催場所	ホスト団体	
2月 21日	AMICEエグゼクティブ委員会会合	ベルギー・ブリュッセル	AMICE	
3月	8日	ベルギー・ブリュッセル	AMICE	
	16日	ギリシャ・アテネ	シネテリストイキ保険	
4月	4日	ベルギー・ブリュッセル	ICMIF, AMICE	
	5日	ベルギー・ブリュッセル	ICMIF, AMICE	
5月	14日~19日	イギリス・マンチェスター	ICMIF	
	16日	ベルギー・ブリュッセル	AMICE	
6月 7日~8日	AMICE理事会会合/年次会議	ベルギー・ブリュッセル	AMICE	
8月	調整中	ラテンアメリカ再保険グループ (LARG) 年次総会	プエルトリコ	マルチプレス保険
10月	16日	イギリス・ロンドン	ICMIF	
	17日~20日	イギリス・ロンドン	ICMIF	
11月	14日	イギリス・マンチェスター	ICMIF	
	29日~12月1日	ウルグアイ・モンテビデオ	スルコ社	

2018年イベントカレンダー

月日	イベント名	開催場所	ホスト団体
4月 23日~25日*	ICMIF再保険会議 (MORO)	カナダ・モントリオール	ICMIF
6月 3日~5日	AMICE総会 (隔年開催)	スウェーデン・ストックホルム	フォルクサム社、Länsförsäkringar社

*多少前後する可能性あり



会員団体にとっての価値

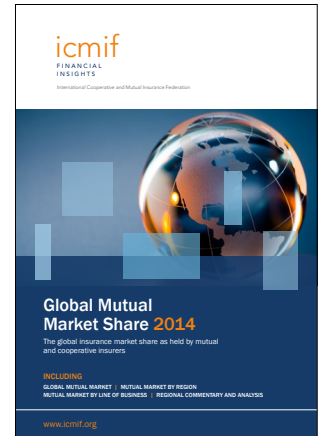
- 他会員の幹部や職員と交流し共に学ぶ
- イベントに参加して世界各地から集まった参加者の斬新な視点に学び、経営やチーム運営に活かす
- 人材・専門知識開発コース「リーダーシップ+」に参加し、協同組合/相互扶助組織の違いを最大限に活かした内容とICMIF独自の最先端シミュレーションツールを用いた演習に学ぶ

知見と情報を共有 する意義と価値

情報化時代に生きるわたしたちは、数多くの論文やレポート、報告書を入手することができます。しかし、その中から重要で有益な情報を取捨選択するのは簡単なことではありません。ICMIFのビジネスインテリジェンスチームは、財務データの分析と戦略的情報に基づいた各種レポートを作成し、会員団体に配布しています。レポートのテーマは多岐にわたりますが、常に会員団体のニーズや要請に基づいて決定し、会員団体が抱える課題や市場動向をふまえた内容となっています。

2016年の主なレポート

ミューチュアル・マーケットシェア (2014年のデータ)
国際女性デー記念：女性社長に関する調査結果 (ビジュアルレポート)
グローバル500 (2014年のデータ) (会員限定レポート)
グローバル評判レポート (会員限定レポート)
ICMIF会員団体の経営組織と経営実践 2016 (会員限定レポート)
協同組合/相互扶助組織の保険へのアクセス (ビジュアルレポート)
マイクロインシュランス (ビジュアルレポート)
協同組合/相互扶助の保険組織の市場規模 2016 (ビジュアルレポート、2015年のデータ)
ICMIF会員団体主要統計レポート 2015 (会員限定レポート)
マーケット・インサイト フランス版 2015
マーケット・インサイト ドイツ版 2015
マーケット・インサイト アメリカ版 2015
マーケット・インサイト ラテンアメリカ版 2015
マーケット・インサイト ヨーロッパ版 2015



icmif

会員団体にとっての価値

- 協同組合/相互扶助の保険組織に関するICMIF独自のレポートを活用して、職員や外部関係者との信頼関係構築を図る
- 会員団体の戦略的課題を取り上げ、実践的なアドバイスや解決策を提案する会員限定レポートを入手する
- 自社の経験や商品を実践例として、また自社の考えを参考意見としてレポート作成に役立ててもらおう

上記以外に、2015年以前に発表した以下のレポートも会員限定で入手可能です。

CEOの視点と考え (会員限定レポート)

戦略インサイト「職員への思いやりがビジネスに成功をもたらす」

(会員限定レポート)

戦略インサイト「変貌する消費者行動」 (会員限定レポート)

グローバル評判レポート 2013年 (会員限定レポート)

戦略インサイト「組合員との結び付き強化戦略」 (会員限定レポート)

販売効果をもたらす協同組合と相互扶助の理念 (会員限定レポート)

組織を率いる女性たち (会員限定レポート)

2017年に発表予定のレポート：

ミューチュアル・マーケットシェア (2015年のデータ)

グローバル500 (2015年のデータ) (会員限定レポート)

CEOの視点と考え 2017 (会員限定レポート)

戦略インサイト「ビッグデータと最先データ端分析」 (会員限定レポート)

マーケット・インサイト ヨーロッパ版 2015

Y世代に関するレポート (会員限定レポート)

ICMIF会員団体主要統計レポート 2016 (会員限定レポート)

マーケット・インサイト ラテンアメリカ版 2016

マーケット・インサイト アメリカ版 2016

マーケット・インサイト フランス版 2016

マーケット・インサイト イギリス版 2016

マーケット・インサイト ドイツ版 2016

世界の協同組合/相互扶助の保険組織の市場規模 2017

(ビジュアルレポート、2016年のデータ)

国際的な働きかけ の意義と価値

規制当局、監督官、NGOを含めた市民社会、メディアなど外部の影響が国内外で拡大している今、協同組合/相互扶助の保険組織も、このような影響から生じる問題への対応を求められています。わたしたちの将来は、これら外部組織・機関の動きに大きく左右される可能性があることを忘れてはなりません。

ICMIFは協同組合/相互扶助の保険組織を代表する組織として、わたしたちが社会的に重要な位置を占めていることを理解してもらい、わたしたちの利益が無視されるような事態を防ぐために、会員団体の協力を得ながら、多くの外部組織・機関に対する働きかけを行っています。

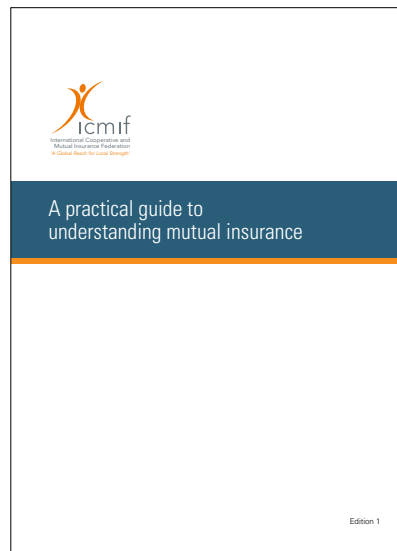
なかでも、以下に挙げるような、協同組合/相互扶助の保険組織の将来を左右する影響力を持つと思われる国際的な組織・機関と関係を構築し、積極的な活動を行っています。

- ・ 国連と世界銀行
- ・ 保険開発フォーラム (IDF) - ICMIFは創設メンバーで、最高意思決定機関に会員団体の代表者2名が、執行機関に1名が参加している
- ・ G20ビジネスサミット (B20) - ICMIFと会員団体の代表7名が、G20に対して政策提言を行う3つの作業部会に参加している
- ・ 保険監督者国際機構 (IAIS) - ICMIFは「協同組合/相互扶助組織/その他地域社会組織の規制監督に関する適用文書」草案委員会の委員を務めている
- ・ 経済協力開発機構 (OECD)
- ・ 金融安定理事会 (FSB)

ラテンアメリカでは、保険監督者国際機構 (IAIS) の地域機関であるASSALが、ICMIFを参加パートナーとして認めています。

ヨーロッパでは、欧州連合 (EU) の専門機関である欧州保険・企業年金監督局 (EIOPA) で、5大関係者 (ステークホルダー) の一つに位置付けられており、協同組合/相互扶助の保険組織を代表する立場で発言しています。また、EIOPAの保険・再保険ステークホルダーグループ、欧州保険協会の戦略委員会、社会的経済の推進団体「ソーシャルエコノミー・ヨーロッパ」でも、協同組合/相互扶助の保険組織と社会的経済を代表する公式メンバーとして活動しています。欧州委員会と欧州議会では、協同組合/相互扶助の保険組織を代表する連合体としての地位を確立し、関係を構築しています。各国機関や閣僚レベルを含む個人とも、広範なネットワークを築いています。

規制当局や監督官に、協同組合/相互扶助の保険組織に対する理解を深めてもらうための資料として、「グローバル・マニフェスト」と「相互扶助の理念に基づいた保険を理解するための実践ガイドブック」を作成しています。作成にあたっては、会員団体の意見を広く求めました。





第3回国連防災世界会議（2015年、仙台）に出席した、ICMIF会員団体のケニアCICグループのネルソン・クーリア氏（前最高経営責任者）



ICMIF総会（2015年、アメリカ・ミネアポリス）にパネリストとして参加したセバスチャン・フォン・ダーレン氏（保険監督者国際機構 G-SII アナリスト作業部会座長）



ICMIFも参加したCOP21パリ会議（2015年）の閉幕後、ICMIF機関誌 Voiceのインタビューに応じるヤノシュ・バストール氏（国連気候変動枠組条約担当事務総長補佐・当時）

icmif

会員団体にとっての価値

- ・ 会員団体が影響を受ける国際的な保険関連規制監督に関して、最新情報を定期的に入手する
- ・ 協同組合/相互扶助の保険組織に影響する国際的な議論において意見を述べる機会を持つ
- ・ 国際レベルで協同組合/相互扶助の保険組織を代表し外部関係者に対処できる組織に所属する
- ・ ハイレベルな国際会議やイベントなどに協同組合/相互扶助の保険組織の代表として参加し、認知度を高める活動に積極的にかかわる機会を持つ
- ・ 監督規制の分野で、協同組合/相互扶助の保険組織のみでなく保険業界に影響を与えている個人や組織の動きを注視してもらう

ICMIF は、協同組合/相互扶助の保険組織に関する資料やデータを外部にも提供しています。これまで以下の著名企業や報告書でICMIFの資料が採用されてきました。

- ・ スイス再保険
- ・ A.M.ベスト社
- ・ G20ビジネスサミット (B20)
- ・ KPMG
- ・ 保険監督者国際機構 (IAIS)
- ・ ケンブリッジ大学持続可能性リーダーシップ研究所
- ・ 国連開発計画の持続可能な金融システムに関する報告書
- ・ 国連事務総長の気候変動イニシアチブに関する報告書



コミュニケーション の意義と価値

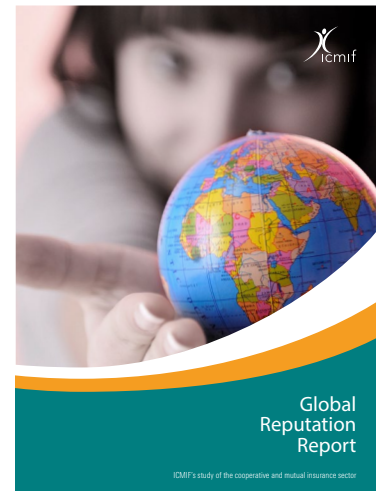
協同組合/相互扶助の保険組織にとって、評判を管理する重要性がますます高まっています。ICMIFは2013年に、協同組合/相互扶助の保険組織の評判をあらゆる面から評価検討し、今後の成長のために改善すべき点やヒントを探る調査を実施し、その結果をまとめたレポート「グローバル評判レポート」を発表しました。これは、この種としては初の試みでした。

調査の結果、評判に関してICMIFが取り組むべき重要課題として、協同組合/相互扶助の保険組織の認知度の向上、国際レベルでの発言力の確保、優れた業績との関連性を高めること、外部で協同組合や相互扶助の理念を取り上げてもらうこと、協同組合/相互扶助の保険組織に対するポジティブな感情を増やすこと、の5項目が特定されました。

そこでICMIFは大規模なコミュニケーション戦略を採用し、課題への対応を行いました。2015年には、その成果を評価するために追跡調査を実施し、その結果を新レポートにまとめました。

追跡調査の結果、コミュニケーション戦略の効果が以下のような数値で表されました。

- ・ 世界的認知度：11%増（2013年を基準とした増加率、以下同じ）
- ・ 話題性の高いコンテンツや会話における発言度：93%増
- ・ 協同組合/相互扶助の保険組織の話題で協同組合や相互扶助の理念が言及される割合：184%増
- ・ 協同組合や相互扶助の理念に言及するケースの8割は外部コンテンツ
- ・ 協同組合/相互扶助の保険組織に対するポジティブな感情がネガティブな感情を上回る割合：60%増
- ・ 保険業界全体を取り巻く国際的主要課題の認識・対応度：78%増





会員団体ならびに協同組合/相互扶助の保険組織と保険業界に影響を与える組織や個人に対して情報を提供し続けること、それがICMIFのコミュニケーション戦略の基本です。



Voice - 協同組合/相互扶助の保険組織を取り巻く課題や話題、CEOインタビューなど多彩な内容を取り上げるICMIFの機関誌（紙媒体と電子版）で、1年に3回発行されています。

ICMIF四半期報告 - ICMIF事業戦略に基づいた活動内容を会員団体に報告するレポート（電子版）で、四半期ごとに発行されます。

月間ニュースレター（2016年第3四半期から開始） - 会員団体に最新ニュース、新レポート発表やイベント開催のお知らせなどを届ける電子版ニュースレターです。

ブログ - 会員団体や事務局、外部関係者などが投稿するブログで、1カ月に1~2回の割合で更新しています。

メディア対応 - 世界的な保険専門誌に定期的に寄稿し、コメントを発表しています。例えば、イギリスの有力業界紙「インシュランスデイ」（有料会員にオンラインでニュースを提供するメディアで、月間訪問数18,000人）には定期的に記事を寄稿しています。

ツイッター - ICMIFのアカウントでは、1,000人以上のフォロワーがニュースやコメントを共有しています。

リンクトイン - 4,000以上のコンタクト数を持つビジネスプラットフォームで、ICMIFでは職員も含めニュースを共有し、つながりを保つために活用しています。

5-5-5開発戦略 の意義と価値

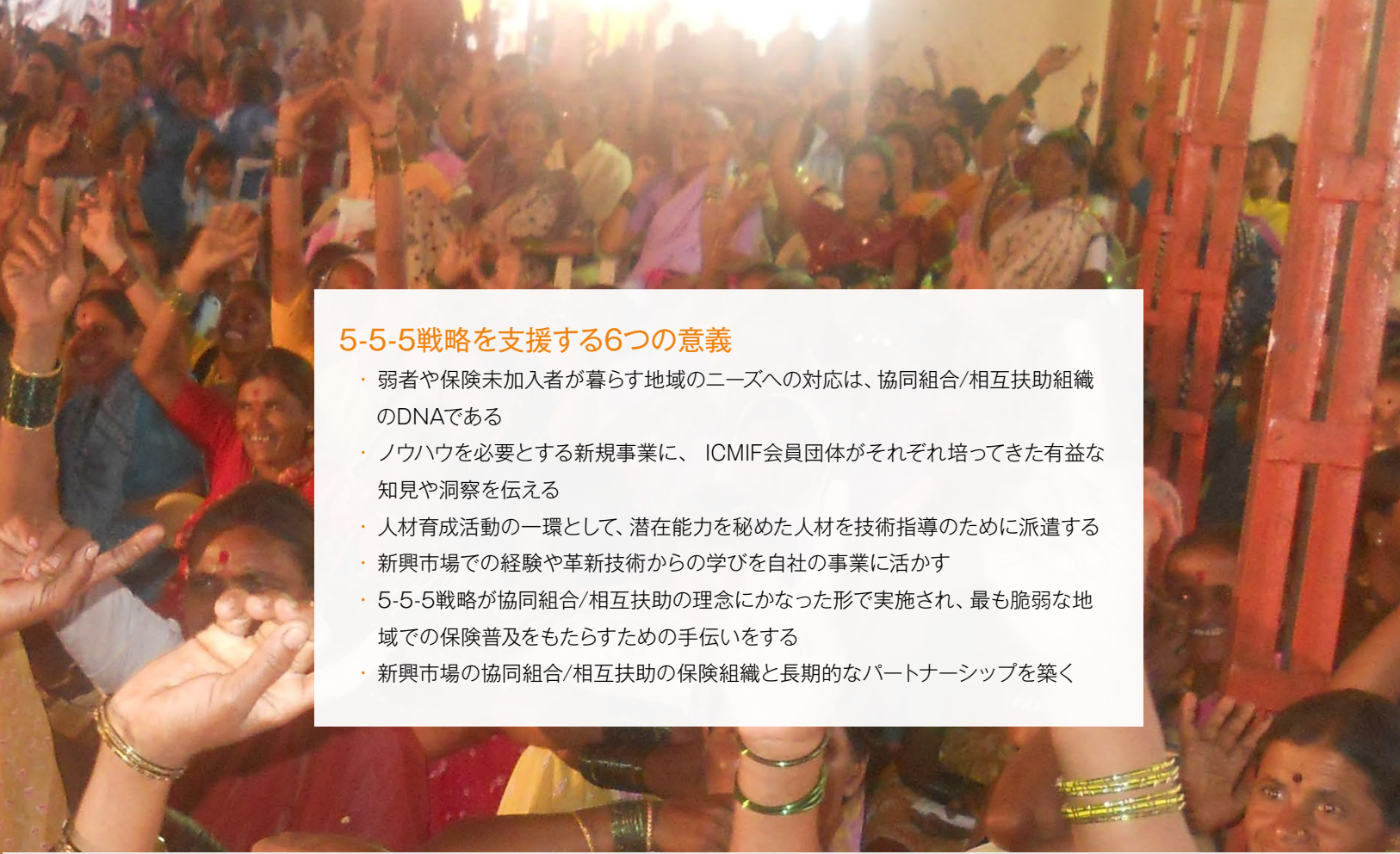
マイクロインシュランスで脆弱な地域社会の強靱化を目指す

2015年1月、ICMIFは新興市場において協同組合/相互扶助の理念に基づいたマイクロインシュランスを本格的に発展させ、多くの貧困層の将来に良い影響を与えることを目指した「5-5-5マイクロインシュランス開発戦略（5-5-5戦略）」を始動させました。

戦略は、今後5年間に新興5カ国で500万世帯（2,500万人に相当）にマイクロインシュランスの普及を目指すもので、下線を引いた3つの「5」をとり、「5-5-5戦略」と名付けられています。

対象国の選定にあたっては、協同組合/相互扶助の保険組織による開発活動がすでに実施されているかどうか、ICMIF会員団体が存在しているかどうかなどの要因を考慮した結果、コロンビア、インド、ケニア、フィリピン、スリランカの5カ国に決定しました。





5-5-5戦略を支援する6つの意義

- ・弱者や保険未加入者が暮らす地域のニーズへの対応は、協同組合/相互扶助組織のDNAである
- ・ノウハウを必要とする新規事業に、ICMIF会員団体がそれぞれ培ってきた有益な知見や洞察を伝える
- ・人材育成活動の一環として、潜在能力を秘めた人材を技術指導のために派遣する
- ・新興市場での経験や革新技术からの学びを自社の事業に活かす
- ・5-5-5戦略が協同組合/相互扶助の理念にかなった形で実施され、最も脆弱な地域での保険普及をもたらすための手伝いをする
- ・新興市場の協同組合/相互扶助の保険組織と長期的なパートナーシップを築く

icmif

5-5-5戦略を援助する方法

- ・財政援助（助成金の提供、複数年に分割しての助成も可能）
- ・技術援助（研修と人材育成、オペレーションシステムの開発、組合員の啓もう活動、マーケティング、商品開発、影響評価、認知度向上などの分野で指導・支援するための職員派遣）

5-5-5マイクロインシュランス開発戦略の詳細は、ICMIF新興市場担当上級責任者のサビア・パテル（メール：Sabbir@icmif.org、電話：(+44) 161 952 5059）までお問い合わせください。

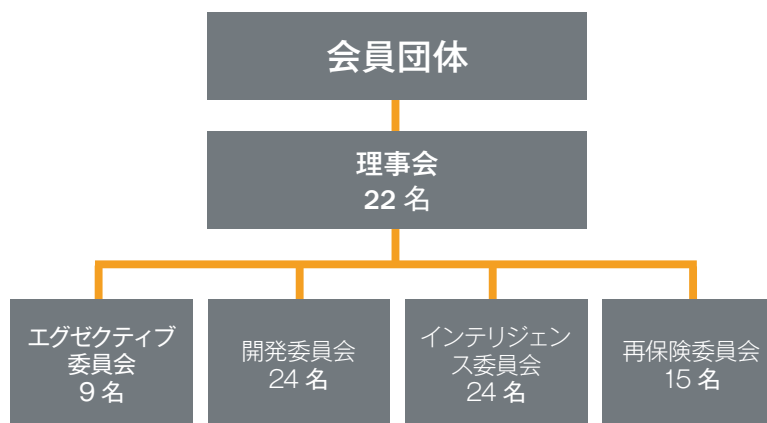


ICMIFの組織と機構

ICMIFは、会員団体が必要としているサービスや活動をタイムリーに提供し真の価値をお届けするために、会員団体により管理運営されています。ICMIF理事会と各種委員会は、世界各地の会員団体の代表が理事あるいは委員を務め、それぞれの専門知識や地域の多様性を結集させています。理事は、ICMIFに加盟する全会員団体によって4年ごとに選出されます。



ICMIF会長 ヒルデ・フェルナイレン氏



理事メンバー

ヒルデ・フェルナイレン氏 (会長)
P&V社経営委員会会長 (ベルギー)

ブラッド・ヒューイット氏 (副会長)
スライベント・フィナンシャル
社最高責任者 (アメリカ)

ケン・ウン氏 (副会長)
NTUCインカム社最高責
任者 (シンガポール)

トム・ギトゴ氏 (副会長)
CIC保険グループ グルー
プCEO (ケニア)

ルイス・ピエリーニ氏
トリウンフォ社社長 (アルゼンチン)

ロブ・ウェッセリング氏
コーポレータース社社長
兼CEO (カナダ)

ドゥニ・ベルティオーム氏
デジャルダン・フィナンシャル社社
長兼最高執行責任者 (カナダ)

アンヌ・ムノルー氏
AAM事務局長 (フランス)

ジャン＝ルイ・ダヴェ氏
MGEN-ISTYA社最高責
任者 (フランス)

ウォルフガング・ワイラー氏
HUKコーブルグ社CEO (ドイツ)

クリストフ・ランビー氏
R+V保険理事 (ドイツ)

ピエルルイジ・ステファニーニ氏
ウニポール社社長 (イタリア)

勝瑞 保氏
JA共済連 代表理事理事長

中世古 廣司氏
全労済 代表理事理事長

クリス・ブラック氏
FMG社最高責任者 (ニ
ュージーランド)

アリス・アリップ氏
CARD MRI社社長 (フィリピン)

ロベルト・カストロ・イラルド氏
ムルチプレス協同組合保険
社長 (プエルトリコ)

キム・ヨン・ボク氏
農協生命保険CEO (韓国)

アイザック・スミット氏
PPS社CEO (南アフリカ)

イェンス・ヘンリックソン氏
フォルクサム社社長兼
CEO (スウェーデン)

マーク・サマーフィールド氏
CIS保険社長 (イギリス)

リンゼイ・シンクレア氏
NFUミューチュアル社グルー
プ最高責任者 (イギリス)

ICMIFの設立経緯と歴史

1922年、協同組合保険5団体が集まり、交流と情報交換の場として、国際協同組合同盟（ICA）の中に保険の専門機関を発足させました。委員会設立の中心となって活躍したのは、ベルギーのプレボワイヤンス・ソシアル社（当時の団体名、現在はP&V社）の社長を務めていたジョゼフ・ルメール氏です。これが、国際協同組合保険連合（ICMIF）の母体となりました。

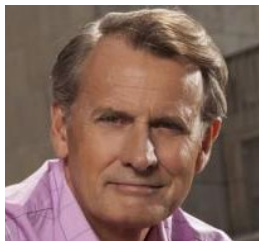
1949年になると、会員同士の再保険契約を推進し、再保険市場での再保険手配に困難を強いられていた中小協同組合のニーズに対応するために、再保険仲介サービスを開始しました。このサービスは2005年に廃止されましたが、再保険に関する知識と情報の交換が会員団体の関心事であることに変わりはなく、隔年で開催されるMORO（再保険会議）は多くの参加者を集め、会期中には再保険交渉と取引の場（ミニ・モンテカルロ会議）も設けられています。

1960年代には、新興国で活発化した協同組合保険新設の動きを支援するために、開発部門が設けられました。これまで25以上の協同組合/相互扶助の保険組織の設立をお手伝いしてきましたが、その中には、NTUCインカム社（シンガポール）、CICケニア社（ケニア）、マルチプレス保険（プエルトリコ）といった、その後成長し順調な業績を上げている団体が含まれています。開発事業は現在、5-5-5マイクロインシュランス開発戦略を中心とした形で行われています。

ntuc
Income



近年の歴代会長



アンデルス・スンドストロム氏
(2013年～2016年)



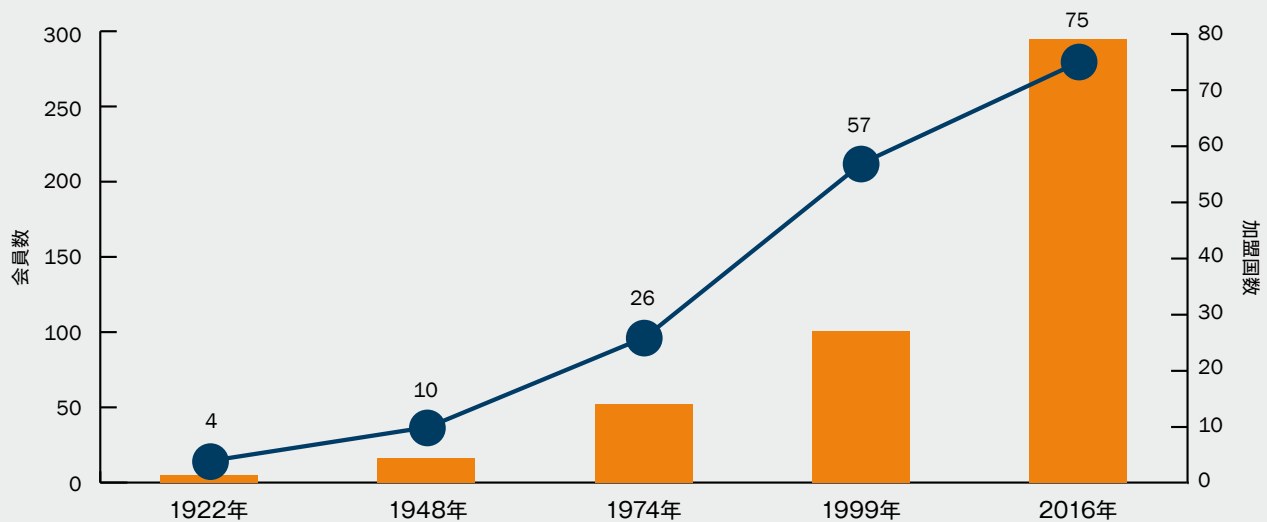
ジョン・バームフォース氏
(2009年～2013年)



キャシー・バーズウィック氏
(2005年～2009年)

1990年代に入ると、ICMIF理事会が組織体制の戦略的見直しを行い、事務局の設置を決めました。この決定を受けて1992年、イギリス・マンチェスター近郊に事務局が開設され、コミュニケーション、調査などのインテリジェンス活動、イベント企画実施の各機能が加わっていきました。ICMIF会員団体数は、2016年9月1日現在で290（グループを含む）を数え、加盟国数は世界6大陸を網羅する75カ国にのぼっています。

ICMIF会員数の推移



地域協会



「ICMIF総会は…」

『あると役に立つもの』ではなく、『なくてはならないもの』です。事業にとって得るところがあるのはもちろんですが、個人レベルでも大いに得るところがあります。これが貴重なのです。」

リンゼイ・シンクレア氏(イギリス、NFUミューチュアル社)

「マネージメントコースから多くのことを得ました。」

2013年のマネージメントコース受講者は国こそ違え、同じような課題を抱えていました。これまで参加した中で最も優れた研修機会だったと上司や同僚に報告しました。」

アンドレアス・シュルツ氏(ドイツ、R+V保険)

「コミュニケーション・フォーラムは…」

企画運営がしっかりしていて、多くの知識と情報を得ることができます。足を運ぶ価値があります。参加してよかったと心から思いました。」

ジェーン・ラッセル氏(カナダ、コーポレーターズ社)

「2015年の規制問題フォーラムはテーマ選定が絶妙でした。」

協同組合/相互扶助の保険組織にとって本当に興味がある話題を取り上げたことを称賛したいと思います。」

レベッカ・リベラ氏(コスタリカ、コーペラエ保険組合)

お問い合わせをお待ちしています

ICMIFに関するお問い合わせや加盟の方法については、下記担当者までご連絡ください。

リズ・グリーン（会員サービス担当上級責任者）

メール：liz@icmif.org

電話：+44 161 929 5090

国際協同組合保険連合(ICMIF)

Denzell House Dunham Road Bowdon

Cheshire WA14 4QE United Kingdom

電話: +44 161 929 5090 ファックス: +44 161 929 5163

International Cooperative and Mutual Insurance Federation (ICMIF) 2016年

国際協同組合保険連合(ICMIF)は、世界各地の会員団体に競争上の優位をもたらすことを目的として、優れた実践例となるさまざまな取り組みを行う機関です。戦略に関する知見や最新の市場情報の共有を通じて、加盟する協同組合と相互扶助組織の成長を支えています。

icmif

国際協同組合保険連合

2016年12月